

お盆と平和

宗議会議員 篠田 穰

昔インドのお釈迦様のお弟子の中に神通力第一といわれた目連さまというお方がおられました。神通力とはあらゆるものを見通せるという力です。

ある時、目連さまは亡くなったお母さんはどうしているだろうと思い、得意の神通力で見てみることにしました。するとお母さんは、餓鬼道という世界でとても苦しんでいたのです。そこはどんなにお腹がすいていても、食べ物を食べることも、のどがカラカラでも水で潤すことも出来ない苦しい世界です。お母さんや餓鬼たちは骨と皮にやせ衰えていました。

目連さまはびっくりして、お母さんをなんとか救いたいと思いお釈迦様に尋ねました。「なぜお母さんは餓鬼道に堕ちたのでしょうか?」。お釈迦様は「あなたのお母さんは自分さえよければよい、自分の子供さえよければいいと考え、自分を中心に他人のことはどうでもよいと、あなただけをかわいがったからだ。この15日に全ての餓鬼たちが救われるように供養しなさい」と教えられました。そこで目連さまは言われたとおりにしました。すると全ての餓鬼が浄土へ行くことが出来ました。

自分一人が幸福になるのではなくて、皆と一緒に幸福にならないと自分も幸福になれないのです。供養するということは「皆に優しくしよう」「お互いが仲良く他の者に対ししても傷つけないようにしようということです」。

さて8月15日の終戦の日に、仏教会の勧めで終戦から62年目を向かえ岐阜のそれぞれのお寺で「もう二度とあのような悲惨な戦争は繰り返さない。永久的に平和な世界でありたい」という願いから梵鐘を鳴らします。是非ともご参加ください。願わくはこの功德をもって、一切衆生が平等にお浄土への道を歩まれんことを。